

衛生管理者免許試験 公表問題

労働衛生（有害業務）

- ① 空気中の有害物質
- ② 粉じんによる健康障害
- ③ 金属による健康障害
- ④ 有機溶剤による健康障害
- ⑤ 化学物質等による健康障害
- ⑥ 騒音による健康障害
- ⑦ 電離放射線による健康障害
- ⑧ 有害要因による健康障害
- ⑨ 化学物質のリスクアセスメント
- ⑩ 労働衛生対策
- ⑪ 作業環境測定
- ⑫ 局所排気装置
- ⑬ 労働衛生保護具
- ⑭ 特殊健康診断

【令和 7 年 4 月】

【問 1 4】 電離放射線による健康影響に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- (1) 電離放射線の被ばくによる生体への影響には、身体的影響と遺伝的影響がある。
- (2) 電離放射線の被ばくによる身体的影響のうち、白内障は晩発障害に分類される。
- (3) 電離放射線に被ばく後、数週間程度までに現れる造血器系障害は、急性障害に分類される。
- (4) 電離放射線の被ばくによる発がんや遺伝的影響は、確定的影響に分類され、症状の程度は線量に依存する。
- (5) 造血器、生殖腺、腸粘膜など頻繁に細胞分裂している組織・臓器は、電離放射線の影響を受けやすい。

▶▶解説◀◀

- (1) (2) (3) (5) 正しい
- (4) **誤り**：「確定的影響」⇒「確率的影響」。「症状の程度は線量に依存する」⇒「被ばく線量が増えるほど発生率が高まる」。

解答 (4)

【令和 6 年 10 月】

【問 1 6】 電離放射線による健康影響に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- (1) 電離放射線の被ばくによる生体への影響には、身体的影響と遺伝的影響がある。
- (2) 電離放射線の被ばくによる身体的影響のうち、白内障は晩発障害に分類される。
- (3) 電離放射線の被ばくによる発がんや遺伝的影響は、確定的影響に分類され、その発生には、しきい値があり、しきい値を超えると発生率及び症状の程度は線量に依存する。
- (4) 電離放射線に被ばく後、数週間程度までに現れる造血器系障害は、急性障害に分類される。
- (5) 造血器、生殖腺、腸粘膜など頻繁に細胞分裂している組織・臓器は、電離放射線の影響を受けやすい。

▶▶解説◀◀

- (1) (2) (4) (5) 正しい
- (3) **誤り**：「確定的影響」⇒「確率的影響」、「しきい値があり、しきい値を超えると発生率及び症状の程度は線量に依存する」⇒「しきい値がなく、被ばく線量が増えると発現の確率も増加する」。

解答 (3)

【令和 6 年 4 月】

【問 1 4】 電離放射線による健康影響に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- (1) 電離放射線の被ばくによる生体への影響には、身体的影響と遺伝的影響がある。
- (2) 造血器、消化管粘膜など細胞分裂の頻度の高い細胞が多い組織・臓器は、一般に、電離放射線の影響を受けやすい。
- (3) 電離放射線に被ばく後、30 日以内に現れる造血器障害は、急性障害に分類される。
- (4) 電離放射線の被ばくによる身体的影響のうち、白内障は晩発障害に分類される。
- (5) 電離放射線の被ばくによる発がんや遺伝的影響は、確率的影響に分類され、症状の程度は線量に依存する。

▶▶解説◀◀

- (1) (2) (3) (4) 正しい
- (5) **誤り**：「症状の程度は線量に依存する」⇒「しきい値がなく、被ばく線量が増えると発現の確率も増加する」。

解答 (5)

【令和 5 年 10 月】

【問 1 7】 レーザー光線に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- (1) レーザー光線は、おおむね 1 nm から 180nm までの波長域にある。
- (2) レーザー光線は、単一波長で位相のそろった人工光線である。
- (3) レーザー光線の強い指向性や集束性を利用し、高密度のエネルギーを発生させることができる。
- (4) 出力パワーが最も弱いクラス 1 又はクラス 2 のレーザー光線は、可視光のレーザーポインタとして使用されている。
- (5) レーザー光線にさらされるおそれのある業務は、レーザー機器の出力パワーなどに基づくクラス分けに応じた労働衛生上の対策を講じる必要がある。

▶▶解説◀◀

- (1) **誤り**：「1 nm から 180nm」⇒「180nm から 1mm」。
- (2) (3) (4) (5) 正しい

解答 (1)

【令和 4 年 10 月】

【問 1 4】 電離放射線などに関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- (1) 電離放射線には、電磁波と粒子線がある。
- (2) エックス線は、通常、エックス線装置を用いて発生させる人工の電離放射線であるが、放射性物質から放出されるガンマ線と同様に電磁波である。
- (3) エックス線は、紫外線より波長の長い電磁波である。
- (4) 電離放射線の被ばくによる白内障は、晩発障害に分類され、被ばく後、半年～30 年後に現れることが多い。
- (5) 電離放射線を放出してほかの元素に変わる元素を放射性同位元素（ラジオアイソトープ）という。

▶▶解説◀◀

- (1) (2) (4) (5) 正しい
- (3) **誤り**：「波長の長い」⇒「波長の短い」。

＊解答＊ (3)

【令和 3 年 10 月】

【問 1 7】 電離放射線などに関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- (1) 電離放射線には、電磁波と粒子線がある。
- (2) エックス線は、通常、エックス線装置を用いて発生させる人工の電離放射線であるが、放射性物質から放出されるガンマ線と同様に電磁波である。
- (3) エックス線は、紫外線より波長の長い電磁波である。
- (4) 電離放射線の被ばくによる白内障は、晩発障害に分類され、被ばく後、半年～30年後に現れることが多い。
- (5) 電離放射線を放出してほかの元素に変わる元素を放射性同位元素（ラジオアイソトープ）という。

▶▶解説◀◀

- (1) (2) (4) (5) 正しい
- (3) **誤り**：エックス線は、紫外線より波長の短い電磁波である。

＊解答＊ (3)

【令和元年 10 月】

【問 1 4】 電離放射線に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- (1) 電離放射線の被ばくによる生体への影響には、身体的影響と遺伝的影響がある。
- (2) 電離放射線の被ばくによる身体的影響のうち、白内障は晩発障害に分類される。
- (3) 電離放射線の被ばくによる発がんや遺伝的影響は、確定的影響に分類され、その発生には、しきい値があり、しきい値を超えると発生率及び症状の程度は線量に依存する。
- (4) 電離放射線に被ばく後、数週間程度までに現れる造血器系障害は、急性障害に分類される。
- (5) 造血器、消化管粘膜など細胞分裂の頻度の高い細胞が多い組織・臓器は、一般に、電離放射線の影響を受けやすい。

▶▶解説◀◀

- (1) (2) (4) (5) 正しい
- (3) **誤り**：「遺伝的影響」⇒「身体的影響」。

解答 (3)

【平成 30 年 4 月】

【問 1 2】 電離放射線に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- (1) 電離放射線の被ばくによる影響には、身体的影響と遺伝的影響がある。
- (2) 電離放射線の被ばくによる身体的影響のうち、白内障は晩発障害に分類される。
- (3) 電離放射線の被ばくによる発がんや遺伝的影響は、確定的影響に分類される。
- (4) 電離放射線の被ばく後、数週間程度までに現れる造血器系障害は、急性障害に分類される。
- (5) 造血器、生殖腺、腸粘膜、皮膚など頻りに細胞分裂している組織・臓器は、電離放射線の影響を受けやすい。

▶▶解説◀◀

- (1) (2) (4) (5) 正しい
- (3) **誤り**：「確定的影響」⇒「確率的影響」。発がん性（身体的影響）と遺伝的影響は、被ばく線量が増えると発現の確率も増加する「確率的影響」に該当する。

解答 (3)